

より多くのなかまを職場で迎えよう

2021年4月5日号
第211号

毎月2回5日・20日発行

発行所

東京都千代田区霞ヶ関2の1の3 国土交通労働組合
電話(03)3580-4244 F A X (03)3593-0359
URL : http://kokkoroso.or.jp/
発行者: 安藤 高弘
1部20円(組合員の購読料は組合費に含む)



2021年4月5日 国交労組 第211号 (通巻1367号) 昭和37年12月3日 第三種郵便物認可

国交労組

ようこそ国土交通労組へ



労働組合への加入を待っています！

なかまに加わって働きやすい職場をめざそう

国土交通労働組合(以下、国土交通労組)は新たに職場に配属されたみなさんを心から歓迎します。国土交通労組では職場環境の改善のために、様々な活動にとりくんでいます。ひとりでは解決できない悩みや不安は、同じ職場で働くなかまに相談し、ともに考え、労働組合をつうじて行動することによって、解決につなげていくことができます。

国土交通労組のなかまとなって、みんな働きやすい職場をめざしませんか？

働く環境が悪ければ国民の安全・安心は守れない

国土交通労組は、日本全国にある整備局や運輸

局、空港や気象台、自動車検査場や研究施設、教育機関などの国土交通行政に携わる職員で構成する労働組合です。国土交通行政は、インフラや交通

運輸の整備、気象情報など国民の生活、そして、安全・安心に直結するものです。近年多発する自然災害においては、防災・減災のための情報発表から復旧・復興支援まで国民生活に大きくかかわる業務を担っています。国民の安全・安心を守る国土交通行政を実現するために、職員が安心して働ける職場環境が必要不可欠です。国土交通労組は国民本位の行政の確立や、職員の労働条件向上、職場環境改善をめざして様々なとりくみをおこなっています。

個人に責任を押し付ける風潮は許さない
これからみなさんは国土交通行政を担う一員として業務を行っていきま

す。最初は何もわからないうことが多く、研修や職場の先輩からいろいろなことを学び、できることを増やしていくことになります。しかし、いま、職

場の多くが人手不足による余裕のない環境になっており、教育やフォロー体制が十分に整っていないといえます。さらに職場全体が組織として業務を遂行するのではなく、「自分で考える」など、組織が個人の力量に頼る、あるいは、問題が起きた時の責任を組織ではなく、個人に押し付けるなどの自己責任論が蔓延しつつあります。若い職員のなかにはこのような風潮により、思い悩み、ひとりで抱え込んでしまい、業務過多により、自身の生活さえも犠牲にしてしまっている人もいます。



当局と交渉し、職場の実情を訴え改善を求める

相談が寄せられていますが、一つひとつの課題を解決していくことはもちろん、問題を根本的に解決する制度をつくらなければなりません。こうしたもとで、労働組合は職場になくはならないものであり、頼りになる存在です。

労働組合は助けあいささえあう組織
なかまが少なければ、本

明日へ
新年度が始まり職場では新しいなかまも顔を出してくれています。

新しい予算が執行されることになりませんが予算については国民のための予算なのかどうか見極めることが必要です。やはり国民の最大の関心事はコロナをいかに終わらせるかではないでしょうか。コロナ対策に予算を充てていますが、本当にこれで十分なのでしょうか。一方、緊急事態宣言が解除された東京では人出がかなり戻ってきているように感じます。▼先日、休業していた近所の焼き肉屋さんが再開していました。チェーン店とは違い家庭的で好きなお店です。コロナ不況で本当に再開してくれるのか気にしていました。が、なんと再開してくれました。近所の小さなお店ですが、個人経営の店では、生活にかなり影響しています。▼政府は自己責任と言わんばかりに「自助」という言葉をしきりに使っていますが、他人の力を借りることなく、自分の力で切り抜けるという意味があります。しかし、決して行政の責任を放棄するという意味はありません。十分な保障と感染拡大防止をみんなで乗り越えたいですね(TT)